

## でん粉原料用カンショ新品種「コナホマレ」の育成

熊谷 亨・山川 理・石黒浩二・甲斐由美 (九州農業試験場)

Toru KUMAGAI, Osamu YAMAKAWA, Koji ISHIGURO and Yumi KAI :  
"Konahomare" : New Sweetpotato Cultivar for Starch Production

鹿児島県のカンショ栽培面積の約60%はでん粉原料用であるが、でん粉の関税化等によりその置かれている状況は非常にきびしい。この状況を打開するためには、現在のでん粉原料用の代表的品種である「コガネセンガン」「シロユタカ」にかわる、高でん粉、多収のでん粉原料用品種を育成し、低コストで原料いもの生産を進める必要がある。

## 1. 来歴および育成経過

「コナホマレ」は、極高でん粉・多収の「ハイスターチ」を母、組合せ能力の高い「九系82124-1」を父とする交配組合せ(交配番号90110)から選抜した系統である。交配採種は1990年に実施し、1991年以降選抜・育成を行った。実用的特性を検討した結果、高でん粉であることから、1995年以降「九系168」の系統番号を付して生産力検定試験、系統適応性検定試験、特性検定試験を行った。これらの試験成績を総合的に検討して選抜し、1996年12月に「九州126号」の系統名で関係機関に配付し、地域適応性を検討した。2000年8月に「コナホマレ」(カンショ農林52号)として命名登録された。

## 2. 特性の概要

本圃における草型は「匍匐型」、茎の太さは「やや細」、莖長は「やや長」、分枝数は「やや少」である。頂葉色は「淡緑」、葉色は「緑」、葉の大きさは「中」で、葉形は「心臓形」である。しょ梗の長さは「やや短」、強さは「中」、いもの形状は「短紡錘形」で、外観は「やや上」である。条溝は「少」、裂開は「無」、皮脈は「少」である。いもの皮色は「淡褐」で、肉色は「淡黄白」である。萌芽性は「中」である。

育成地および鹿児島県農試大隅支場における上いもの収量は「コガネセンガン」や「シロユタカ」を上回る。切干歩合、でん粉歩留は「コガネセンガン」や「シロユタカ」より高く、「サツマスターチ」と同程度である。でん粉収量は「コガネセンガン」や「シロユタカ」を上回り、育成地で「コガネセンガン」比117%(標準無マルチ栽培)、130%(長期マルチ栽培)であった。鹿児島県農試大隅支場の標準マルチ栽培では、「コガネセンガン」のでん粉収量を50%上回った。

サツマイモネコブセンチュウ抵抗性は「やや強」、ミナミネグサレセンチュウ抵抗性は「中」である。黒斑病抵抗性は「やや弱」である。貯蔵性は「コガネセンガン」「サツマスターチ」と同程度の「やや難」である。

でん粉白度は「コガネセンガン」「シロユタカ」「サツマスターチ」と同程度である。

## 3. 適地および栽培・利用上の注意

南九州のカンショ作地帯に適し、鹿児島県がでん粉原料用として奨励品種に採用した。普及見込み面積は3,000haである。

栽培に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

1) 貯蔵性が「やや難」であるので、収穫作業やその後の取り扱いをていねいに行い、種いもの貯蔵温度にも留意する。

2) ミナミネグサレセンチュウ抵抗性が「中」、黒斑病抵抗性が「やや弱」であるので、同病害の多発地帯では防除に努める。

3) 掘取が遅れると、軟腐病によるいもの腐れが発生しやすいので、掘取時期に留意する。

## 4. 命名の由来および育成従事者

でん粉収量が非常に多い品種ということから「コナホマレ」(漢字名：粉誉)と命名された。

育成従事者は山川 理、熊谷 亨、吉永 優、石黒浩二、日高 操、甲斐由美である。

第1表 「コナホマレ」の主要特性

特性名	コナホマレ	コガネセンガン	シロユタカ
育成地 標準無マルチ栽培 (1995-1999年)			
萌芽性	中	中	やや良
葉形	心臓形	単欠刻浅裂	波・歯状心臓形
いもの形状	短紡錘形	下膨紡錘形	短紡錘形
いもの大小	中	中	中
いもの皮色	淡褐	黄白	白(赤)
いもの肉色	淡黄白	淡黄白	淡黄白
いもの外観	やや上	中	中
貯蔵性	やや難	やや難	中
ネコブセンチュウ抵抗性	やや強	やや弱	やや強
ネグサレセンチュウ抵抗性	中	やや弱	中
黒斑病抵抗性	やや弱	弱	—
上いもの収量 (kg/a)	255	234	241
同上対標準比	109	100	103
切干歩合 (%)	39.2	36.7	35.8
でん粉歩留 (%)	27.3	25.4	25.1
でん粉収量 (kg/a)	70	60	61
同上対標準比	117	100	102
鹿児島県農試大隅支場 標準マルチ栽培 (1997-1999年)			
上いもの収量 (kg/a)	496	363	415
同上対標準比	137	100	114
切干歩合 (%)	40.3	37.3	37.1
でん粉歩留 (%)	28.6	26.0	26.4
でん粉収量 (kg/a)	142	95	110
同上対標準比	150	100	116

注) 黒斑病抵抗性は、長崎県総合農林試験場における1995、97年のデータ